第 5 回
日 本 腰 痛 研 究 会

平成9年11月1日 (土)

センケイ会館 (サンケイホール)
〒100 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL: 03-3273-2258~9 (フロント直通)

第五回日本腰痛研究会事務局
〒102 東京都千代田区九段南2-1-39
九段坂病院 整形外科

会 長 山 浦 伊 娑 吉

第5回日本腰痛研究会開催にあたって

会長 山浦伊装吉

遅ればせながらスタートした日本腰痛研究会も第5回を迎えて、処女歩行を漸く始めたばかりの感がある。巷には数々の素人療法や非科学的な医療まがいの行為があふれている。また素人向けの本があまた上梓され腰痛に悩む人々に必ずしも正しいとは言えない情報の導入がなされている。腰痛の医療に直接携わる整形外科医が共通の認識をもとに、その正しい知識を社会や衛生・行政面に還元することは当研究会の大きな目的の一つである。

今回は腰痛の根源を探究することと、その方法論に主題をおいて演題募集を行ったところ、多数の応募をいただいた。ご応募いただいた会員諸氏、諸施設に感謝したい。

日常診療の20%を占めるといわれる腰痛患者の診療の中で、整形外科医が診断治療に多くのエネルギーを費やしながらかつて挑戦し、いまなおその病態の探究に難渋しているのが現状であろう。

腰痛を発する病態はその原因が複雑多岐であること、種々の検査や画像などで、客観的・科学的にその発痛源を捉え、あるいは明示することが難しい面があることなどの理由から専門的研究者間でかなりの見解の相違があるようである。この相違の谷間を埋める集中的な討議は、これまでの大きな学会・研究会で取り上げられていないように思われる。これを検討する場として本研究会は最適の場所であろう。

今回の主題では腰痛の発痛源の探究について行われる貴重な研究発表と討議の中から共有のコンセンサスを求め、その成果を会員諸氏や関連諸機関にまた広く社会に還元することができれば望外の喜びである。また脊椎の変性が経年的に進み、同じ腰痛でも患者の年代層によって違いが生ずる病態や症候の詳細な分析や分類が明らかにされ、継続的な研究の端緒となることも望みたい。

1997年11月